

事業名	国立大学等施設緊急整備5か年計画の推進	
主管課及び関係課	(主管課)大臣官房文教施設企画部計画課(課長:岡誠一) (関係課)高等教育局国立大学法人支援課(課長:清木孝悦) /専門教育課(課長:杉野剛)/医学教育課(課長:石野利和) 研究振興局学術機関課(課長:芦立訓)	
施策目標及び達成目標	<p>施策目標3-2 大学などにおける教育研究基盤の整備 達成目標3-2-1 国立大学等施設緊急整備5か年計画に基づき、平成17年度までに約600万㎡の国立大学等の施設整備を重点的・計画的に行う。 達成目標3-2-2 施設の効率的・弾力的利用を図るための施設検討委員会等の設置などの体制づくりを推進する。 達成目標3-2-3 施設の効率的・弾力的利用を図るための学内規定の整備を推進する。</p> <p>(関連) 施策目標5-5 研究開発基盤の整備 達成目標5-5-4 世界水準の教育研究成果の確保を目指し、国立大学等施設緊急整備5か年計画に基づき、平成17年度までに約600万㎡の国立大学等の施設整備を重点的・計画的に行う。</p>	
事業の概要	<p>第二期科学技術基本計画を受け、世界水準の教育研究成果の確保を目指し、策定した「国立大学等施設緊急整備5か年計画」(以下「5か年計画」という。)に基づき、国立大学等施設の重点的・計画的整備を図るため、今後(平成13年4月当時)1,100万㎡の整備需要が見込まれる中、特に緊急性の高い約600万㎡の重点的整備を実施する。また、大学改革と一体となった施設の効率的・弾力的利用に取り組むなどのシステム改革を実施する。</p> <p>なお、5か年計画については、整備目標の約600万㎡に対し、15年度までに約329万㎡(55.1%)の整備を実施しているが、整備対象別に見ると「老朽化した施設の改善」の進捗が遅れが見られる状況である。</p> <p>このため、5か年計画の最終年度となる17年度においては、「老朽化した施設の改善」を更に推進するため、予算を拡充する必要がある。</p> <p>【計画期間】 ・平成13年度～平成17年度</p> <p>【5か年計画の所要見込み額】 ・約16,000億円</p> <p>【重点的整備の対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院施設の狭隘解消等 (約120万㎡) ・卓越した研究拠点等 (約40万㎡) ・先端医療に対応した大学附属病院 (約50万㎡) ・老朽化した施設の改善 (約390万㎡) 計 600万㎡ 	
予算額及び事業開始年度	平成17年度概算要求額:324,742 百万円(平成16年度予算額107,408 百万円) 事業開始年度:平成13年度	
事業開始時において得ようとした効果	第二期科学技術基本計画において国の最重要課題として位置づけられている大学等施設の老朽化・狭隘化の改善に向け、国立大学等の施設の重点的・計画的整備を実施することにより、独創的・先端的な学術研究や創造性豊かな人材を育成し、世界水準の教育研究成果の確保を目指す。	
得られた効果	<p>5か年計画の整備実績は全体計画の約55%に達している。整備対象別に見ると「大学院施設の狭隘解消等」(86.9%)、「卓越した研究拠点等」(83.8%)、「先端医療に対応した大学附属病院」(72.0%)となっているが、「老朽化した施設の改善」については整備実績が40.2%であり、更に重点的に整備を推進する必要がある。</p> <p>また、施設の効率的・弾力的利用を図るための施設検討委員会等の設置及び学内規定の整備については想定どおり達成しており、大学等における施設の有効活用等を図るための学内体制が整った。</p> <p style="text-align: right;">()内は整備目標に対する整備状況</p>	
得ようとする効果	5か年計画に基づき、「老朽化した施設の改善」を中心に重点的な整備を実施し、達成目標3-2-1に掲げる目標(17年度までに約600万㎡の国立大学等の施設を整備)を達成する。	<p style="text-align: center;">達成年度</p> <p style="text-align: center;">平成17年度</p>

	また、利用率の低い室を集約しプロジェクト研究等を行うための共同利用スペースに再編するなど、大学改革と一体となった施設の効率的・弾力的利用に取り組むなどのシステム改革を促進する。
必要性	<p>「老朽化した施設の改善」の対象としている昭和45年以前に整備された施設は、経年劣化が著しく、また耐震性に問題を抱えているものが多いため、安全・安心の観点から早期に改善整備を実施することが強く求められており、極めて緊急性の高い課題となっている。</p> <p>また、「老朽化した施設の改善」については、15年度までに156万㎡(40.2%)の整備を実施してきているが、16年度予算の実績を加えても46.6%に留まっていることから、更に重点的な整備を推進する必要がある。</p> <p>なお、他の区分に比べて「老朽化した施設の改善」の進捗に差が生じている理由は、総合科学技術会議において示された資源配分方針に基づき、5か年計画の前半は、教育研究成果の早期発現を目指すことはもとより、改善整備を行う際の移行先としても使用できるよう、大学院施設及び卓越した研究拠点に係る施設整備を重点的に推進してきたためである。</p> <p>現在は、改修時の移行先も確保されており、相当数の改善整備の推進を図ることが可能となっている。</p> <p>5か年計画は、「科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針(平成16年5月26日 総合科学技術会議)」において、「老朽化した施設の改善を中心に、更なる施設整備を推進」することとされており、また、科学技術政策担当大臣・総合科学技術会議有識者議員による「概算要求における科学技術関係施策の優先順位付けについて」において、毎年度S評価を受けている。</p>
効率性	<p>5か年計画は、「公共工事コスト縮減対策に関する新行動指針」、「同新行動計画」及び「公共事業コスト構造改革プログラム」に基づき、積極的にコスト縮減(H13～H16までに3.8%の縮減)を図り、必要最少限の経費で多くの事業を実施するなど、予算の効率的な執行に努めるとともに、民間資金を活用して施設整備を行うPFI事業により24件(約40万㎡、国のPFI事業件数の約半数)の整備を行うなど、新たな整備手法の導入に積極的に取り組みながら、重点的・計画的な整備を推進してきている。</p> <p>17年度予算においても、引き続きコスト縮減及びPFI事業を実施していくこととしている。</p> <p>なお、これまでに執行した予算の割合(所要見込額に対し71%)と実際の整備率(55%)に差が生じているが、これは、総合科学技術会議の資源配分方針に基づき大学院施設及び卓越した研究拠点に係る施設整備を重点的に推進してきたためであり、今後は大学院施設や卓越した研究拠点に比べて安価な「老朽化した施設の改善」を重点的に推進するため、必要な予算の確保により整備率との差は解消される。</p>
有効性	<p>効果の把握の仕方(検証の手順)</p> <p>施設整備部分については、整備面積により把握するとともに、施設利用の状況等についてフォローアップ調査を行う。</p> <p>施設検討委員会等の設置及び学内規定の整備については、取組状況調査により把握する。</p> <p>なお、上記の調査結果については、有識者による検討会において審議することとしている。</p>
	<p>得ようとする効果の達成見込みの判断根拠(判断基準)</p> <p>これまでの施設整備実績を勘案すると、概ね3,200億円の予算措置で「老朽化した施設の改善」の未整備面積約200万㎡の整備が実施できることから、5か年計画の所要経費が確保できれば、達成目標は概ね達成されると考えている。</p>
公平性、優先性	<p>現在、事業の選定に当たっては、必要性・緊急性や教育研究の活性化状況などについて、有識者(国立大学等施設整備に関する検討会)の評価に基づき、客観的で公平性のある資源配分を行っている。</p>

国立大学等施設緊急整備5か年計画

～世界水準の教育研究成果の確保を目指して～

【第2期科学技術基本計画】

平成13年3月30日閣議決定

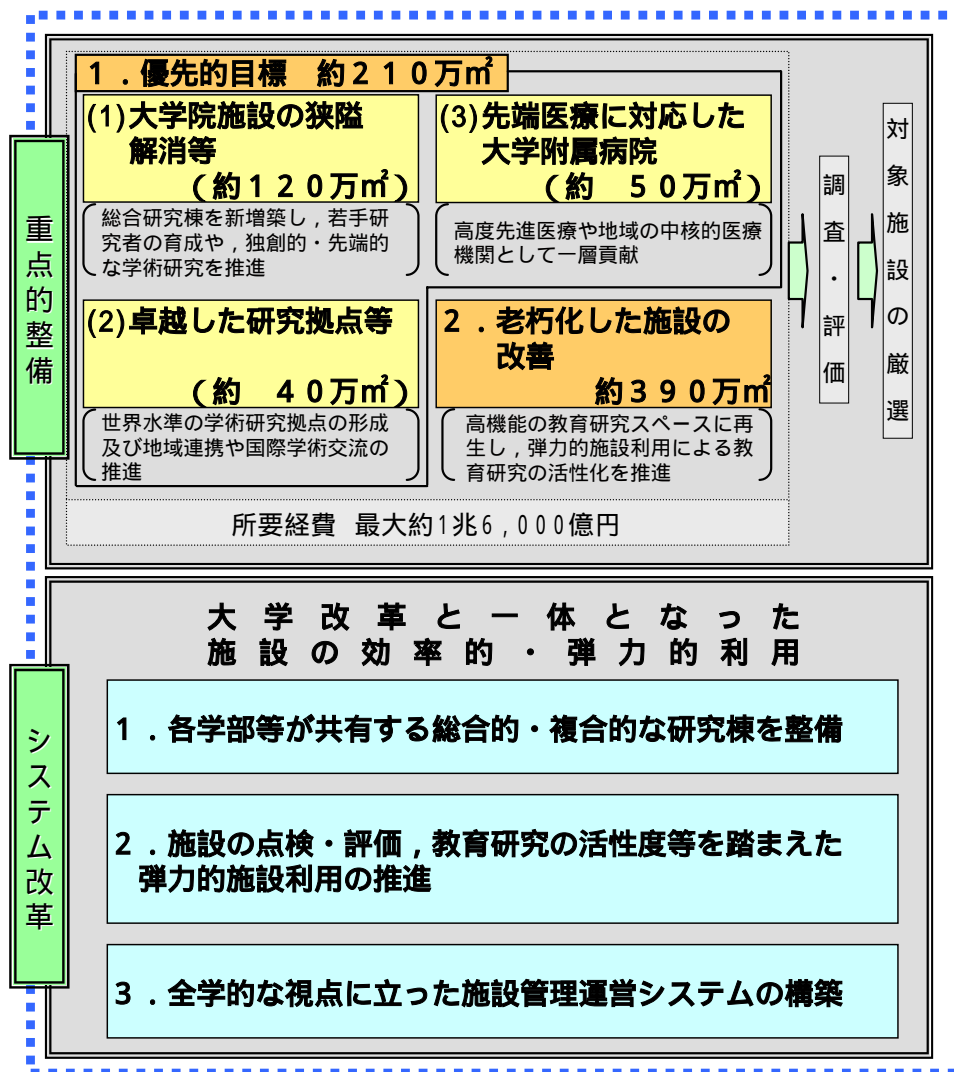
国立大学等の施設整備について、最重要課題として位置付け、科学技術振興のための基盤整備として重点的に取り組む。

【国立大学等施設の課題】

国立大学等施設においては、経年による老朽化や機能劣化、大学院学生等の飛躍的な増加等による狭隘化が進むなど、その対応が喫緊の課題。

今後整備が必要な面積
約1,100万㎡

【国立大学等施設緊急整備5か年計画】



独創的・先端的な学術研究

産業界への成果の還元

科学技術創造立国の着実な実現

創造性豊かな人材育成

社会が求める高度な能力を備えた人材の供給

教育研究の活性化

重点的整備

システム改革